

議 事 要 旨

【日 時】 令和元年8月9日（金） 18:30 ～ 20:30

【場 所】 佐世保市中央保健福祉センター6階研修室1

【出席者】 委員 5 名（※ 尾崎委員、宮地委員は欠席）

（事務局等） 塚元保健福祉部長、辻保健福祉部次長、兼医療政策課長、井原医療政策課主幹、久地浦主査

（佐世保市総合医療センター） 赤瀬専務理事、田中事務部長、小村事務部次長、南川経営企画課長、経営企画課岩本主査

（北松中央病院） 東山理事長、田中事務部長、前田看護部長、岡本副看護部長、富本経理課長

■議題1 佐世保市総合医療センター平成30事業年度の業務実績評価について

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

○救急医療で、ウォークインの患者が減り、重症患者を受け入れる割合が多くなっているが、救急救命を担当する医師の数は足りているのか。（横山委員）

→ 救命救急の医師の数は不足しており、現在総合医療センターでは、他の病院から医師を派遣して頂き業務にあたっている状況である。（事務局）

○特に意見がないようなので、「佐世保市総合医療センター平成30事業年度の業務実績評価について」は評価委員会では「意見なし」とする。（木村委員長）

■議題2 佐世保市総合医療センター第1期中期目標期間の業務実績評価について

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

○予算、収支計画、資金計画すべてにおいて目標以上の業績があがっており評価する。しかしながら、本業績評価については、法人の総評がB判定、評価者（市）の評価ではC判定となっており相違が生じている。評価者の総評に記載されているように、独法化直後の特殊な会計処理（無償譲与を受けた資産の減価償却に対する戻入処理）を考慮すると、業績が目標を上回ったとしてもC判定が妥当であると考えことから、評価者の判断を支持する。（【欠席：意見書による】宮地委員）

○（評価を見ると）利益を上げると言っているように見てとれるが、独立行政法人病院が利益を上げた場合、民間との兼ね合いはどうなるのか。どのくらいの収益でとどめるという指針はあるのか。また、「改善」とあるが、以前から何の問題があり、何を改善するのが見えてこないか。（安部委員）

→ 独立行政法人は、利益を追求する企業ではないが、赤字を続け最終的に市民にご迷惑をかけることがないよう、一定の利益が必要と考える。先の評価委員会では、委員に医療センターレベルなら収入総額から見ても4～5億ぐらいの収益が必要なのではないかというご意見をいただいた経緯はある。また、「改善」に関しては、目標や計画を立てる前の、元の状況が非常に悪かったというわけではなく、特に収支に関しては費用の節減や削減の意味からの改善、収益は診療報酬の制度を活用しながら収益性を高めていこうということで「改善」という文言を用いている。（事務局）

○地方独立行政法人は政策医療を担うことが目的であり、あまり利益追求型でもよくないし、ましてや赤字を出してもいけない。そうしたことを踏まえると、医師会等（周辺の病院等）ともバランスを取ってやっていく必要がある。（安部委員）

- 出された質疑、意見は記録に残すこととするが、佐世保市の評価に対しては特に意見なしということとしたい。(木村委員長)

■議題3 北松中病院平成30事業年度の業務実績評価について

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

- 訪問看護の件数について、現在、需要は多いと思われるが大きく減少したとある。それに対する今後の、対策をどのように考えているか。(船津委員)

→ 2～3年前までは、北松中央病院にしかなかったが、周辺の佐々町や江迎町などに施設が新設されていることなどにより減少した。民間でできるのであれば、民間に任せてよいとも考えられるが、在宅医療等に関する国の動きも見ながら、今後対策を検討していきたい。(東山理事長)

- 周辺の施設でカバーできているのであれば問題ない。住民がサービスを受けられていないのではないかと思っの質問であった。(船津委員)

- 中核の病院でないと在宅医療等は難しいので、北松中央病院にはもう少し頑張ってもらいたい。(武部医院)

- 評価案に対しての意見は無いようなので評価に関しては意見なしとする。(木村委員長)

■議題4 北松中病院第5期中期目標期間の業務実績見込評価について

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

- 特に意見は無いようなので特に意見なしとする。(木村委員長)